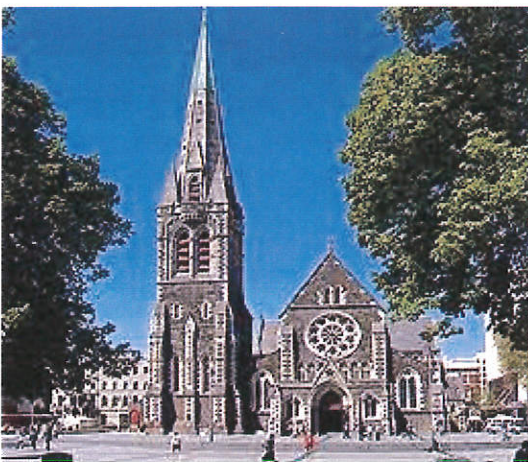
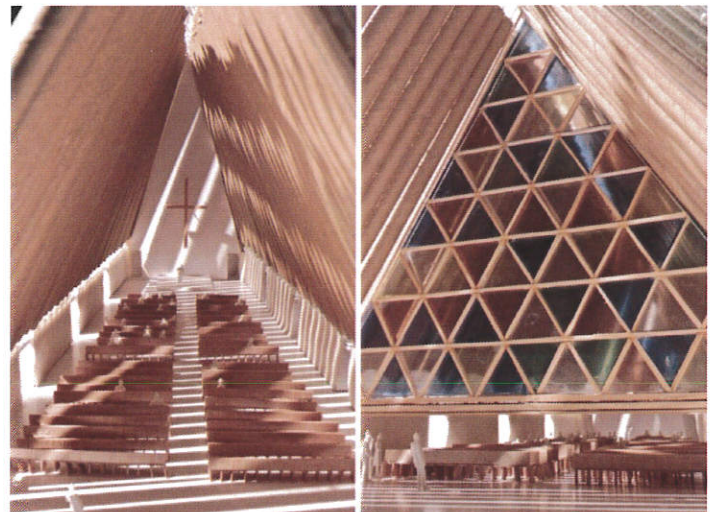


日本ニュージーランド協会（関西）

カンタベリー大震災 活動報告 と 地震後の現状



かつての大聖堂



仮大聖堂模型

文責：永田美夜子

New Zealand Society of Japan, Kansai 日本ニュージーランド協会（関西）

事務局：〒530-0028 大阪市北区万歳町 3-41 城野ビル 201

TEL:06-6367-1773 FAX:06-6367-1793 E Mail: makltd@d1.dion.ne.jp

ホームページ <http://nzsocietykansai.com>

2011年2月22日 12時51分 カンタベリー地方はM6.3の地震に見舞われました。

会員、そして一般の方たちからの「協会として何か出来ませんか?」「お手伝い出来ることはありませんか?」の声に押され、2月26日から梅田駅前、三ノ宮駅前での街頭募金活動及び、郵便振替での募金を開始致しました。募金して下さった数多くの皆さま、街頭募金活動にご協力頂いたボランティアと会員の皆様に改めて感謝申し上げ、この紙面をもって最終報告とさせていただきます。

街頭募金には、協会が窓口になった阪神淡路大震災時クライストチャーチ一時避難プログラム参加者で、ボランティア参加して下さった方々もいらっしゃいました。当時の小学生が立派な大人になっていて感無量でした。

3月18日時点でクライストチャーチ市役所あての送金小切手にした1,646,526円(NZD27072.12)と3月23日時点での追加現金50,000円、皆様からお預かりしたメッセージの英訳は、クライストチャーチから来日中の、Newton Dodgeさん、Cheryl ThorneさんにBob Parker 市長へ直接渡して下さるよう託し、その後に届いた募金は送金しました。

実質2週間ばかりの募金活動でしたが、いくつかの新聞記事、テレビニュース、ラジオインタビューで報道されることにより、クライストチャーチと神戸の1995年の友情が改めてハイライトされ、ニュージーランドへの好感度アップに寄与するなど予想を大きく上回る成果を達成することができました。

2月22日のクライストチャーチ大地震からわずか17日後に3月11日の東日本大地震が日本を襲いました。ニュージーランドの友人からの文章を紹介します。

The recovery in Christchurch will be slow and we are all affected by the number of deaths, and that so many are international students and visitors, including from Japan. That we have suffered these natural disasters together brings us closer together.

ニュージーランドと日本はより強くお互いを思い、助け合います。

会長 呉橋真人

Acknowledgement

NZ 地震募金

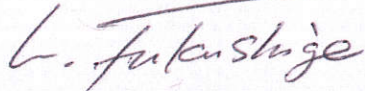
協会会員	264,000
協会会員関係	86,084
第九関係	260,000
1995 一時避難者	191,800
ワイカト大学関係	202,692
新聞等を見ての募金	239,000
神戸街頭募金	516,573
大阪街頭募金	114,183
合計	1,874,332

送金内訳

募金総額	1,874,332	
郵便振替手数料	-8,650	
小切手作成手数料	-5,000	
送金手数料	-2,500	
CCC への送金合計	1,858,182	
A 小切手額	1,646,526	NZD27072.12
B 小切手以外	211,656	
B1 上記のうち現金	65,000	NZD955.69
B2 上記のうち送金	146,656	NZD2232.45
CCC =クライストチャーチ市役所		NZD30260.26

下記が3月18日時点での募金額 1646526 円をニュージーランドドル建てクライストチャーチ市議会あて小切手にしたコピーです。

THIS CHEQUE PAPER CONTAINS A CHAIN WATERMARK — DO NOT ACCEPT WITHOUT NOTING WATERMARK — HOLD TO LIGHT TO VERIFY WATERMARK	
The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd.	42018 343311946
TOKYO MAR. 18, 2011	NO.058-3300094
	NZD*****27,072.12**
PAY AGAINST THIS CHECK TO THE ORDER OF CHRISTCHURCH CITY COUNCIL	
NEW ZEALAND DOLLARS TWENTY SEVEN THOUSAND SEVENTY TWO AND 12/100***	

PAYABLE AT ANZ BANKING GROUP (NZ), LTD. WELLINGTON, N.Z. A/C CRSBUUSAD	The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd. HEAD OFFICE  AUTHORIZED SIGNATURE KAZUO FUKUSHIGE

皆様の募金がクライストチャーチ市長へ手渡されたことがカンタベリーテレビのニュース約9分間（異例な長さのニュースだったそうです）で放映されました。下記アドレスからユーチューブでご覧いただけます。

ドッジ氏によれば市長が皆様あての手紙を書くと言っていたので到着を待っていましたが未だ届いておりません。その手紙、また現地の新聞への掲載記事と一緒にご報告をするつもりでしたが、新聞掲載は無かったようです。

2011年5月27日付 募金を託したニュートン・ドッジ氏（元クライストチャーチ市会議員）からのメール（ちなみにドッジ氏は平成24年秋の叙勲で長年日本との友好に貢献したとして、日本政府より旭日双光章を受けることになりました。11月3日に正式発表になります。外国の民間人としては最高の勲章です。協会の関係者としては2002年のダグラス・ミリガン氏（ウェリントン日本祭の実行委員長）に次いで2人目です。心よりお祝い申し上げます。）

Mak（呉橋真人はNZでこう呼ばれています）

Pleased to attach the YouTube Link of the CTV News on Tuesday Night 24 May.

<http://www.youtube.com/watch?v=7Y4L1uR91fo>

You will need to explain to your Kobe People that we needed to do BOTH Kurashiki & Kobe presentations at the same session so we could 'Hijack' our busy Mayor.

He became very interested in the whole presentation and spoke to Media very well.

(Media Facts do get muddled, but the story is the same.)

We have a Presentation Pack with Coloured Photos going to The PRESS paper straight after the weekend, as the papers are full at the moment on another topic.

We'll keep you informed of that outcome.

Feel free to use this You Tube Link of CTV Television News Broadcast of Tuesday 24 May 2011

It's a long time since I've seen a nine minute Item on any topic on the evening news.

You might even see and hear people you know.

Newton DODGE

5月24日晩のCTVニュースが見られるユーチューブのアドレスをお知らせします。神戸（当協会の意）の皆さんに説明して下さい、多忙な市長を「ハイジャック」するため、（姉妹都市の）倉敷市と貴協会の贈呈式が一緒に行われました。市長はこの贈呈式（に至る募金のプロセス）に深い関心を寄せ、上手くメディアに話をしてくれました（メディアは多少混同して報じていますが）。カラー写真を含めた贈呈式の報告は、プレス紙上で記事の空きがでる今週末以降掲載される予定です。掲載されたらお知らせします。CTVテレビで5月24日に放映されたニュースをユーチューブでどうぞご覧ください。イブニングニュースで1つのトピックが9分間も取り上げられたのは久しぶりのことです。このニュースで君の知り合いの顔や声が聞けるかもしれませんね。

カンタベリー（クライストチャーチ）大震災 現地の様子について

2011年10月初旬にクライストチャーチを訪れ、街の様子と震災当時についてのインタビュー映像を撮影してきました。ニュートンには震災後の状況を俯瞰的に、シェリルには個人的な体験を話してもらいました。DVDは事務局にありますのでお問い合わせ下さい。約17分間です。

DVD 中でのインタビュー翻訳

ニュートン・ドッジ氏 元クライストチャーチ市議会議員

皆さんこんにちは、私はニュートン・ドッジです。最近クライストチャーチで発生した地震について、この12ヶ月間我々がどのように過ごしてきたか、皆さんにわかって頂けるように話をしたいと依頼されました。

2010年9月のことでした。ニュージーランド人はかつて味わったことのない恐怖を経験しました。クライストチャーチ地震です。幸いなことにこの地震が起きたのは、まだほとんどの人がベッドで寝ている早朝でした。しかしこの地震で多くの煙突が崩れ、またたくさんの石造りの教会が傾いたり、正面が崩れたりし、古い建造物が崩壊又は一部が壊れたりしました。この地震からの復旧に時間はかかりませんでした。なぜなら電気、水道等の公共サービスはほとんど影響を受けなかったからです。

しかしながら2011年2月に発生した二度目の大きな地震は大きな被害をもたらしました。この地震で9月に被害を受けた建物はとどめを刺され、同時に多くの一般家屋も深刻な被害を受けました。この地震によって公共サービス網が破壊されたり、影響を受けたためです。

私の場合、市内中心部に位置する家は隣接する教会が倒れ掛かり、地面が大きく陥没したために住むことが出来なくなりました。地震当日に近隣の住民全員は避難を指示されたうえ、当面の住み場所を自分たちで探さなくてはなりませんでした。

市の東部では液状化現象によって砂が噴出し、地盤が脆弱になったために多くの建物が不安定で危険な状態となりました。ある家は煙突が崩れ、ある家は壁が全て崩れました。東部の家のほとんどは、電力、水道、下水のサービスが止まり、その状態が7~8日間続きました。現代の生活を考えると、決して快適な住処とは言えません。家庭の様々な道具類は電力に依存しているため、電話をかけられず、テレビも見ることが出来ず、調理は電気コンロの代わりにガスボンベを使うバーベキュー台をひっぱり出し、水道も止まったので学校や公園にくる給水車まで水を汲みに行かなくてはなりませんでした。しかしこの水は飲む前に煮沸消毒しなくてはなりません。電力なしでお湯を沸かすために皆ガス調理具を使ったり、お店がミネラルウォーターを配ったりしました。

それぞれの家庭は被害の程度や置かれた状況の違いによって異なる対処が必要となり、次いで止まったサービスをどう復旧させ、再び住める家にどうしたら戻せるか、が課題となりました。ニュージーランドにはNew Zealand Earthquake Commission という政府の保険補償組織があります。まずはこのEQC、そして個人的に加入している保険会社が家屋の被害状況をチェックして、修理だけで住めるようになるのか又は建て直すしかないのか審査する技術者と渉りあい、次に建築業者と最善の修理方法を検討する、といううんざりするようなプロセスに時間がかかっています。

私はまだ自宅に帰ることが出来ません。今は10月ですが、2月の地震が私達家族を自宅から引き離れたままです。復興は、すでに自宅に戻り修理を終えている家族もあるという、ばらばらの状態です。地域々で、また家々で様々なケースがあるのです。しかし自宅に帰れなかがろうが、親戚宅に身を寄せていようが、自宅のひび割れを修理し壊れたものを片づけていようが、地震に対する恐怖や心労に苛まれ、復興への道のりが険しい状況は同じです。

市の中心部で起きた2件のビル崩壊は最悪の事態でした。残念なことに2月の地震で185名（うち4名身元不明）の命が犠牲となり、そのほとんどがこの2件のビル崩壊による犠牲者でした。それでもクライストチャーチのビルはほとんどが3-4階建て程度なので、他の街で同規模の地震が発生した場合よりも被害は少なかった、と言えるかもしれません。現在でも市中心部は「Red Zone」で、修理や改装業者以外は立ち入り禁止なので、私たちは新聞やテレビ以外でまだ街の様子を見ることが出来ません。

私達クライストチャーチ市民は、日本のたくさんの人々から贈られた寄付金や贈り物に心から感謝しています。そして特に日本ニュージーランド協会（関西）からの寄付金は、クライストチャーチ市民に代わって街頭に立ち、呼びかけることで集めて下さったものでした。この寄付金はクライストチャーチ市に渡されました。私達はまだこ

の使い道を決めておりません。しかし、赤十字や救世軍、教会からの寄付金のように緊急支援物資には使わない、ということだけは決まっています。私達は将来を見据え、住民や旅行者にとってなにか役立つものに使いたいと考え、2~3案を検討中です。出来れば早くこのプロジェクトを進め、市民の皆さんやクライストチャーチを訪れる皆さんに喜んでもらえるようになって欲しいと希望を持っています。寄附をありがとうございました。そして常に私たちのことを考えて下さっていることに感謝します。

私達はまだ困難の中にあります。昨晚ですら2度地震がありました。今週に入って震度4.5以上の地震が4回もあったのです。つまり私たちはいまだ余震の恐怖にさらされているわけですが、負けません。クライストチャーチの街が再建されてさらに良い街になるのを楽しみにしています。新しい都市計画、建築基準、そして何か街のために新しいことを計画しています。海外からのお客様にも楽しんで頂ける街になるように。私達市民は、強くあり、智恵を出し合って、我々の街を取り戻そうとしています。聞いて下さってありがとうございます。そしてあらためて寄附をありがとうございました。クライストチャーチで、又は私に機会があれば日本で、ぜひお会いしましょう。

シェリル・ソーン女史 クライストチャーチ/倉敷 姉妹都市委員会

2月22日12時51分、クライストチャーチを地震がおそったとき、私は自宅から車で約30分の距離にある、パナイの事務所にいました。私は2階におり、全員建物から出るよう指示されて、急いで階段を駆け下りて駐車場に避難しました。駐車場にいる間、何度も大きな余震がありました。2階建の建物が揺れ、駐車してある車がぐらぐら揺れていました。

1時半頃でしょうか、帰宅した方がいいと言われて車に飛び乗り自宅へ向おうとしましたが、クライストチャーチ住民全員が同じことを考えたらしく、恐ろしい渋滞につかまってしまいました。通常30分の道のりに6時間かかりました。

最初は90歳で一人暮らしの父親宅に向おうとしていたのですが諦めざるを得ず、自宅から父に電話しようと考えました。帰宅してみると、当然のように電話は通じず、停電で、私は父のところに行くことも出来ず、父は携帯電話を持っていませんでした。そこで娘婿が自転車をこいで行って父の安否を確認し、また自転車で父は無事だと私に知らせに来てくれました。どんなに安堵したことでしょう。

私が帰宅してすぐ末娘が訪ねてきました。彼女は自宅から2時間歩いてたどり着きました。私の家は食器棚から落ちたグラスやお皿、ボウルやカップが割れて散乱していましたので、掃除などしなくてはならないことがたくさんありました。その晩から末娘は帰宅せずに私と一緒にしばらくいることにしましたが、家の中にいることを拒否し、裏庭にテントを張って5晩そこで寝ました。そして自宅の猫を探すために帰っていきました。

地震翌日には水をもとめて地元のコミュニティセンターへ行き、大きな容器に水をもらって帰りました。水は煮沸しなくては飲めなかったのも、裏庭にバーベキュー台をセットしてお湯を沸かし、冷ましてから瓶に詰めました。ラッキーなことに我が家には薪ストーブがあり、薪もたくさんあったので、ストーブでもお湯を沸かすことが出来ました。

地震後の天候は不思議な気持ちになるほど晴天続きでした。私達はご近所と情報交換をしたり、おしゃべりしたりして、常に寄り添っていました。7~8日間、私は電話も電気も水もない状態で生活しました。大きな冷凍庫に肉類を保存してあったのですが、停電のため解凍されはじめました。そこで、バーベキューで調理して全部食べてしまうことに決め、冷蔵庫に多少残っていたハム類や野菜でサラダを作っていました。

やっと8月3日になって、私はEQCの訪問を受け、家屋の被害状況調査がありました。そして9月10日にEQCの委託で家屋の修理をする建築会社フレッチャーズが調査に来て、修理見積をEQCに提出しました。5-6週間のうちに修理工事が始められるだろうと告げられました。9月18日、フレッチャーズから10月25日から作業を開始するので、4-5週間家を空けるように言われました。全ての部屋はひび割れやペンキ塗り直し、しっくい壁、二重ガラスのドア枠や、外壁の修理が必要でした。私はいまだに家財と家回りの修理にかかる個人的な保険補償の査定作業を待っているところです。

私は大きな被害を受けた東部地区に住んでいますが、幸いにも自宅の被害は軽微なものですみました。大体一週間後に私は家を空っぽにして、モーテルに4-5週間移ります。その費用も保険会社から出ます。冷蔵庫やベッド等の大型家財は、引っ越し業者が梱包して預かってくれます。帰ってきたら、また家の飾り付けが出来るとたのしみになっています。

復興への道のり

“Why Christchurch?” ウェリントンの人々は口ぐちにそう言い合ったという。

首都ウェリントンに走る活断層は周知であり、「大地震がおきるとすればウェリントン」が一般の認識だった。実際、国会議事堂は地下で揺れを吸収する免震構造になっているし、市内に住む友人はキャンピングカーに当座の食糧や水を常備して避難生活に備えている。

一方大地震を想定していなかったクライストチャーチは、よりによって市中心部約 70%の建物が解体を必要とするほど破壊され、住宅地の被害で多くの住民が生活基盤を脅かされたことに加えて経済活動までもが停滞するという事態に見舞われてしまった。人口流出が続くのは住居より仕事の拠点を失った事が大きいように思う。

さらに復興を困難にさせているのは、繰り返される地震・余震である。2010年9月4日以降発生したM5.5以上でも以下の通りである。

2010年	9月4日	M.7.1	午前4時35分に発生。負傷者は100名以上、死者0。
2011年	2月22日	M6.3	未曾有の被害をもたらした。日本人28名を含む185名が犠牲に。
	6月6日	M.5.5	大きな被害は報告されていない。
	6月13日	M.6.4	M5.1、M5.9と3回の大きな揺れ。液状化、がけ崩れ、停電、断水。
	10月9日	M.5.5	9月以降7668回目の地震。大きな横揺れで被害は報告されなかった。
2012年	12月23日	M6.0	M5.3、M5.9と4回の大きな揺れ。イブにもM5.1が発生。被害拡大。
	1月2日	M5.5	M5.1、M5.5と3回の大きな揺れ。

ドッグ氏からのメッセージによれば、最近でも小さいながらほぼ毎日余震が起きているらしい。

昨年10月のクライストチャーチ滞在中も、気付かない程度の揺れも含めると連日複数回の余震があった。10月9日晩のM5.5が最大だったが、突き上げるような破壊力がある揺れではなく、家がミシミシ軋む大きな横揺れで辛い被害は報告されなかった。政府の地震保険EQCはM5.2以上を地震とし、被害が出た場合補償の対象となる。

揺れるたびに液状化、建物の崩落、地中のサービス網が再び分断され、道路の陥没があちこちで発生する。日本の電線は景観上評判が悪いが、地中に電線を埋め込むのも地震国では考えものだ。

街のシンボル大聖堂の解体は反対運動を押し切って決定されたが、度重なる地震で崩れ続ける建物の保存・修復は危険、との判断からだった。

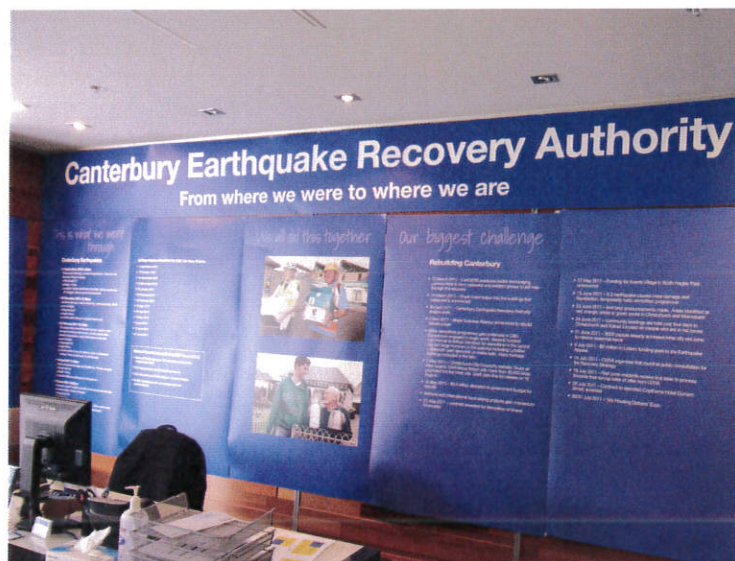
2011年2月地震発生後、政府の対応は早かった。これは2010年9月の地震後、対応が後手後手にまわった反省によるものだという。

2011年	3月6日	第1回住民説明会
	3月19日	ハグレー公園でメモリアルサービス
	4月	CERA(Canterbury Earthquake Authority)カンタベリー地震復興庁発足
	5月	都市復興案を住民から募るShare an Ideaプロジェクト実施
	6月23日	政府が居住困難地区の土地・家屋買い上げを発表
	8月11日	都市復興プラン草案発表、住民との意見交換会を実施
	10月25日	仮バスターミナルオープン 2年間の予定
	10月29日	CBD(市中心部)にコンテナのショッピングモールがオープン
2012年	11月5日	Red Zone(CBDの封鎖地区)バスツアー開始
	3月	大聖堂取り壊し決定、坂茂氏設計の段ボール素材仮大聖堂建設へ
	5月2日	予算説明会&意見交換会
	7月30日	都市再建プラン Christchurch Blueprint 発表

CERA(カンタベリー地震復興庁)のトップに就任したRoger Sutton氏は地元電力会社の役員だった。停電の復旧に奔走し、その実行力が評価されての抜擢だったらしい。(なんと彼は1990年代 当協会が共催したクライストチャーチ日本祭の実行委員会メンバーだった！)

住宅地の被害による分類(Red, Orange, Green, White)はRedに指定された場合国が買い取るが、立ち退かなくてはならないため、評価に納得できない住民も多かったらしい。説明会で長時間にわたって質問に応じる姿に最後には

「Thank you Roger!」と拍手がおきたという。
 ニュージーランド大使館の Stefan Corbett 氏の実家は Red Zone に指定された Avon Side だそうだ。住み慣れた土地から離れざるを得なくなったご家族はとても悲しんでいるという。住民は皆同じ思いだろう。この Avon Side は Avon 川沿いの落ち着いた古い住宅地で、被害は深刻なものだった。川底が隆起したために雨が降るとすぐ水が溢れるようになってしまった。護岸工事の途中であったが、兩岸の高さは明らかに異なり、橋はひしゃげていた。この地区は緑地化が決まっている。



液状化被害は CBD (市中心部) から海へかけての市東部に集中した。今さらであるが、もとは沼地や砂地など地盤が弱い地域だったのが原因だそうだ。東部は突然の陥没が多発しているの、道路には工事のコーンが立ち並んで車線が少ないうえ、Detour 迂回のサインが目立つ。昨日通れた道が今朝は通行止めになっていたりするのだ。一方市西部は同じ街とは思えない軽微な被害で済んでいた。

しかしながらクライストチャーチは CBD (市中心部) を復興させない限り都市としての再生はあり得ない。そこで、いかにもニュージーランドらしい住民参加の Share an Idea だ。応募総数 10 万 6 千。住民の関心と意識の高さがわかる。浮上した復興のテーマは、緑地・低層ビル・安全・ショッピング・手ごろな交通機関 等 130 にのぼった。これをもとにして今年 7 月に都市復興案、Christchurch Blueprint が発表された。

- *コンパクトな CBD
- *エイボン川沿いを中心としたオープングリーンスペース
- *新建築基準 建物の高さは 28m 以下に制限
- *市民病院の整備
- *新しい：コンベンションセンター・マオリ文化センター・スポーツ総合施設・ラグビースタジアム等

CERA (カンタベリー地震復興庁) と市役所は当初検討された市中心部の移転をせず、周囲を緑地で囲い、ビルを低層化して、これまでより集約したコンパクトな街をつくることに決定したようだ。ウエリントンやオークランドと違い、大聖堂周辺で全ての用事が足せたクライストチャーチの便利さを気に入っていたので、新しい街に期待が増す。

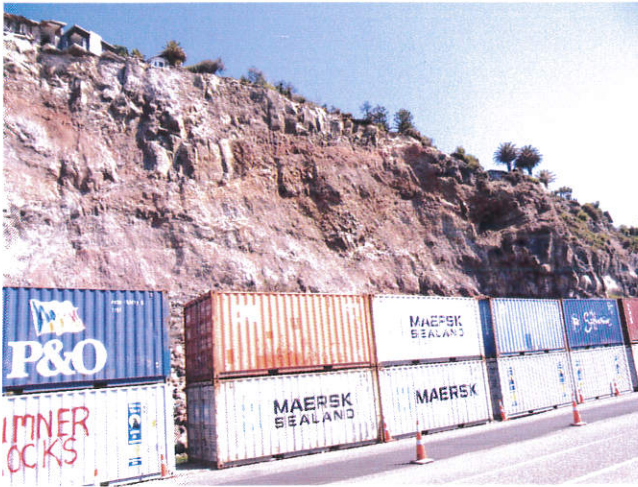
The Press 紙サイトが行ったアンケートに 8018 名が回答、この復興案は住民から賛成多数の評価を得た。

Fabulous 素晴らしい	3319 票	41.4%
Very Good とても良い	2563 票	32.0%
OK	807 票	10.1%
I expected more もっと期待していた	424 票	5.3%
Disappointing がっかり	905 票	11.3%

クライストチャーチの人々は、EQC 手続きの遅さに愚痴を言いながらも、たくましく生活している。店舗や事務所、銀行までコンテナを利用して営業していたかと思ったら、CBD にカラフルなコンテナショッピングモールを作ってしまった。観光客向けだったカジノは地元民にターゲットを移し、安価なランチ、ハンバーガー食べ放題デー等の企画で結構な賑わいだった。被害を受けた店舗の商品「ほこり、汚れはご容赦！」販売セールは大行列が出来ていた。閉店中の店頭には「必ず戻ってくる、それまで皆さん安全に。」と手書きのメッセージが掲げられている。

ニュートンやシェリルの言葉からも感じ取れたのは、地震の被害をポジティブに捉えて将来を良きものにしようとする積極性だった。これは Blueprint 案発表時のボブ・パーカー市長の言葉にも表れている。

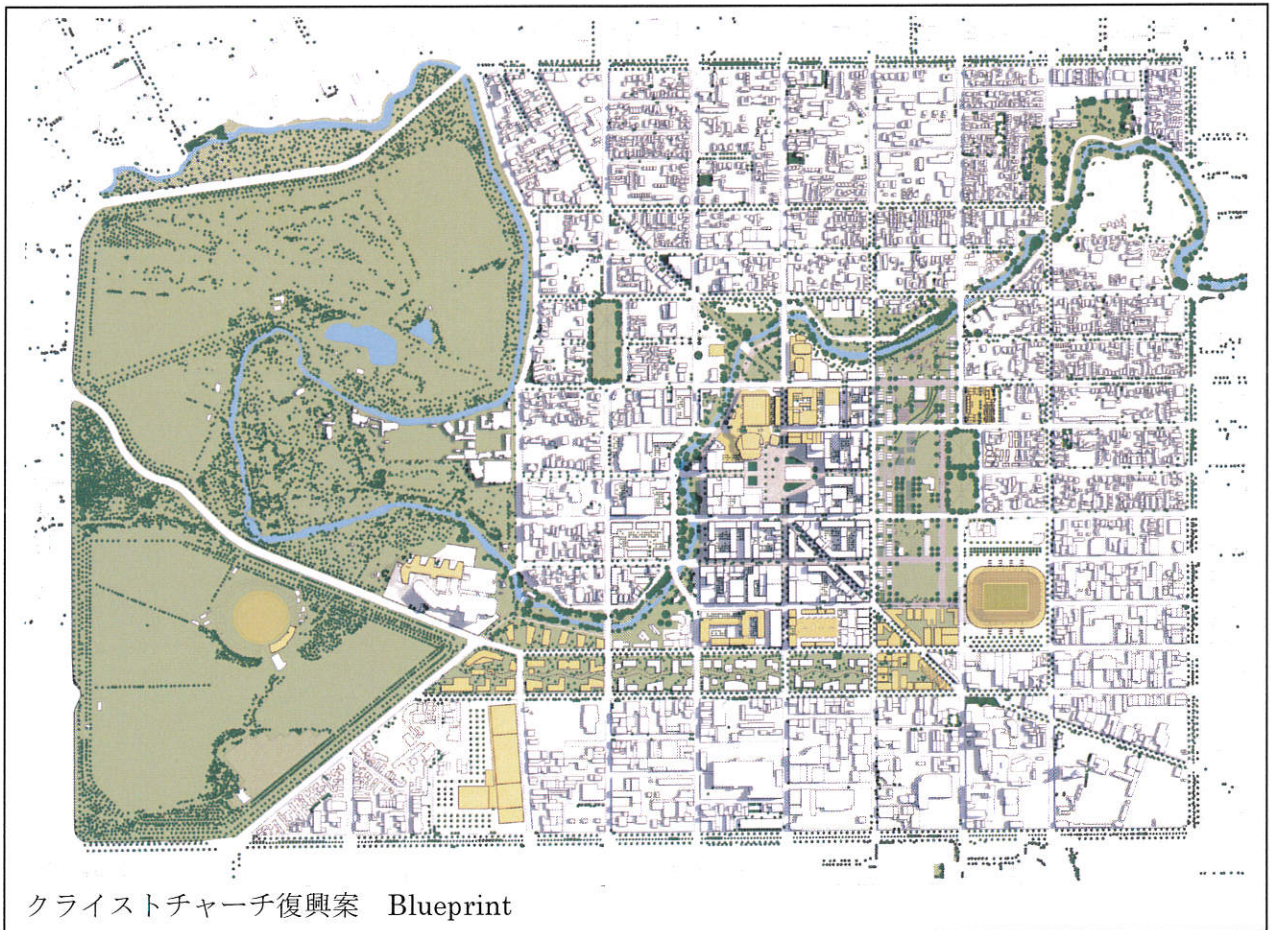
「2011 年 2 月 22 日の大地震で私たちはクライストチャーチ中心部を改善、一新する千載一遇の機会を得た」
 震災被害の悲しみのうえに立ち将来を見据える強さを、私たちも見守っていこう。



サムナー がけ崩れよけのコンテナ



大聖堂の鐘 一個は崩落時に破損



クライストチャーチ復興案 Blueprint



仮設住宅



ニュートン宅に隣接する教会跡



カンタベリー群庁舎